

くらしと協同の研究所  
第20回総会 議案書

開催日：2012年6月30日(土) 午後5時50分～6時30分

※ 総会記念シンポジウムは、午後1時～開催です。

(詳細は、すでに配布しているご案内をご覧ください)

会場：コープイン京都

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル (TEL 075-256-6600)



くらしと協同の研究所

〒604-0851

京都市中京区烏丸通夷川西九軒町 291 せいきょう会館内

TEL 075-256-3335 FAX 075-211-5037

Email [kki@ma1.seikyou.ne.jp](mailto:kki@ma1.seikyou.ne.jp) (← ma1 の 1 は数字です)

URL <http://ha1.seikyou.ne.jp/home/kki/>

## 第20回総会議案と議事次第

- 議案**
- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 第1号議案 | 2011年度 活動のまとめ、会計報告 |
| 第2号議案 | 2012年度 活動方針及び予算    |

- 議事次第**
- 一、開会挨拶と議長確認
  - 二、議事録署名人の選出
  - 三、議案提案と審議、採決  
第1号議案、第2号議案の提案  
同 審議  
同 採決
  - 四、閉会の挨拶

※総会終了後、懇親交流会を開催いたします。

## 第 20 回総会を迎えるにあたって

理事長 的場信樹

本研究所は今年創立 20 周年を迎えることになる。バブル経済の崩壊(1990 年)から阪神淡路大震災(1995 年)を経て、リーマンショック(2008 年)、東日本大震災・福島原発事故(2011 年)に至るこの 20 年間は「失われた 20 年」と呼ばれる。研究所の 20 年はこの「失われた 20 年」にそのまま重なっている。この 20 年間に本研究所も大きく変化してきた。今期はこれまでの研究所の活動を総括し新しい出発を準備する重要な 1 年間になる。

この 20 年は、デフレ、経済の低迷、非正規雇用の増加、人口減少と超高齢化等々、日本にとって長い混迷の時代だった。これらは、経済成長のために、労働、土地、エネルギー資源等を犠牲にしてきた資本主義の危機の反映であり、この資本主義の危機が産業構造や政治制度の構造変化を避けがたいものになっている。この 20 年間に世界も日本も大きな変化を遂げてきた。世界経済の軸はヨーロッパからアジアに移動し、日本は産業の空洞化と超高齢社会に直面して旧制度の「変革」が求められている。しかし、現実には逆に復古ばかりが目立ち、このことが長い混迷の原因になっている。

この長期にわたる混迷の影響は当然協同組合にも無関係ではありえない。そして本研究所もこの 20 年間に大きく変化してきた。この間、本研究所は世界的な構造変化の動きを見据えながら、研究活動を政策提言や人材育成に結び付けることに力を注いできた。設立趣意書(1993 年)では、こうした研究所のスタンスを、端的に「実践的な真理探究の場」と表現している。こうした研究所のあり方は紆余曲折を経ながら現在に至っている。本研究所の活動は以下の 3 点に整理することができる。

第 1 に、社会問題を単なる情勢論のように一過性の現象としてとらえるのではなく、政治・経済制度やライフスタイルの転換といったより根本的な構造変化が必要とされている社会の欠陥・矛盾の現われとして考え研究してきた。非営利協同セクターの研究や組合員のくらしの調査などがこれに当たる。

第 2 に、このような研究活動が日常生活や協同組合事業の改善に役立つ政策提言に結実することを目標としてきた。「進化する共同購入」「市民生協第 2 の創業へ」「都市社会における新しい「つながり」づくり」といった総会記念シンポジウムでの問題提起がこれに当たる。

第 3 に、組合員や役職員をはじめ、会員であればだれでも利用できる学習の場を提供してきた。生協組合員理事トップセミナーや学識理事研究交流大会などがこれに当たる。研究会への参加も会員に開いてきた。

当初「実践的な真理探究の場」になることを目指すという目標を掲げて出発した研究所の活動もいまだ道半ばである。実際にどのような貢献ができたのか、真摯な検証も必要である。また、研究所の存在意義は何なのか、研究所の活動に本当にニーズがあるのか、といったことについて、できれば早急に、この 1 年間をかけて検討することが必要である。

(第1号議案)

## 2011 年度活動のまとめ

### I. 全体まとめ

#### (1) 振り返りにあたって

今年度の振り返りは、研究所の存在価値は何か、研究所活動でどのような価値を生み出すのかという議論に基づき、以下の3つの視点でおこないました。引き続き議論を深めていきます。

(振り返りの3つの視点)

- ① 会員（とりわけ生協などの団体会員、その役職員や組合員）にとって、どんな価値を生み出したか。どんな役立ちができたか。
- ② 研究者や院生の学術的な刺激を生み出したか。研究者間、あるいは研究者と実践家をつなぐ機会をつくり、研究的な議論がすすんだか。次世代を担う若い研究者の参加の場づくりができたか。
- ③ 日本社会や地域の課題に向き合い、それらの解決に資するような社会的価値を生み出し、協同の価値を高めたか。くらしや協同に関して、地域住民の立場で調査研究し、その成果を住民のくらしに役立てたか。

#### (2) 視点に基づく振り返り

1. 会員（とりわけ生協などの団体会員、その役職員や組合員）にとって、どんな価値を生み出したか。どんな役立ちができたか。

- ① 国際協同組合年や東日本大震災とも関連し、第19回総会記念シンポジウムや第13回組合員理事トップセミナーなどの場を通じて、忘れがちな協同組合の歴史や原則について学習することができ、価値、原則に基づき自分たち協同組合の活動を見直し、考える機会をつくることができました。
- ② 13回組合員理事トップセミナーでは、生協の存在価値や組合員理事の役割などについての理解が深まり、組合員理事が日頃から感じている悩みについても参加者同士で知ることができ、組合員理事が元気に活動することに一定貢献できました。また、組合員理事と研究者をつなぐ場にもなり、研究者にとっても組合員理事の思いを知るよい機会になりました。
- ③ シンポジウムやセミナーなどの研究所活動への参加の広がりの中で、会員生協からの講師要請が増えました。協同組合や社会情勢に関するテーマをはじめ、商品やマネジメントなど組合員や職員向けの研修会や学習会を活発化する機会をつくりました。
- ④ 『協う』では情勢に見合った特集を組み、現場でおこっている事実を様々な角度から考察し、会員に情報提供や問題提起をおこなうことができました。とりわけ原発事故後の放射能汚染問題については、取材への協力と院生事務局の取材・調査能力を活かしてタイムリーな問題提起をおこないました。

- ⑤企画委員会では、実践家からの実践事例報告や問題提起に基づき研究者と一緒に議論を深め、研究テーマを導きだす努力をしています。5/19には運営委員会メンバーを加え拡大企画委員会を開催し、「生協事業と組合員、職員のあり様について考える」というテーマでフリーディスカッションをおこない、今後の研究課題を模索しました。
  - ⑥理事会では、団体会員理事から生協の状況や問題意識を報告いただくことや、研究者理事、団体会員理事それぞれから話題提供いただくなかで、少しでも団体会員に役立つ議論になるように工夫しました。
  - ⑦福祉クラブ生協と南医療生協のふたつのスタディツアーを通じて、組合員がくらしの中で困ったことを、組合員自身が主体になって生協の場を通して解決している姿を学び、生協事業と組合員、職員のあり様など、生協の本質に関わる今後の研究課題につなげる機会になりました。
2. 研究者や院生の学術的な刺激を生み出したか。研究者間、あるいは研究者と実践家をつなぐ機会をつくり、研究的な議論がすすんだか。次世代を担う若い研究者の参加の場づくりができたか。
- ①研究者間の意見交換や問題意識の交流の機会を増やすために、11年度の研究委員会では、自主研究会からの報告や公開研究会の開催（第2部）などとともに、研究者からの問題提起（話題提供）や近況報告（研究テーマなど）の時間を増やすなどの工夫をしました。
  - ②若手研究者や院生、あらたな研究者の参加の場づくりとしては、自主研究会の「食の懇話会」は若手や新しい研究者の参加のもとで開催されています。ディスカッションペーパー「生産者と消費者をつなぐ『新たなつながり』を考える」の発行を通じ、執筆や発表の機会にもなっています。また、新たな研究者とのつながりづくりは、『協う』の執筆依頼やインタビュー、シンポジウム・セミナーなどでの講師依頼を通じて広がりつつあります。
  - ③各自主研究会ではあらたな問題提起や研究課題につながる研究がされています。「食の懇話会」からディスカッションペーパーが発行されましたが、「生活圈市場研究会」からも報告書発行が予定されており、研究所のこれまでの研究活動を踏まえて、新しい研究課題の提起が期待されます。
  - ④公開研究会や講演会、シンポジウムを通じて、福島大学協同組合ネットワーク研究所とのつながりができました。「東日本大震災、原発事故と協同組合」のテーマを継続的に深めていく上でも連携を強めていくことが重要です。
3. 日本社会や地域の課題に向き合い、それらの解決に資するような社会的価値を生み出し、協同の価値を高めたか。くらしや協同に関して、地域住民の立場で調査研究し、その成果を住民のくらしに役立てたか。

- ① さまざまな機会を通じて、協同組合の社会的役割や協同の価値を問い直す問題提起をしてきました。震災復興のありかたやあたらしい暮らし方、少子・超高齢社会への対応はじめ、多くの社会問題が横たわっている中で、日常の研究活動を強化し、社会的な提言をすることが求められています。
- ② 「食の懇話会」や「生活圏市場研究会」はじめ自主研究会でも、生活を基盤に地域との関係での調査や研究がおこなわれており、報告書の作成やその準備がされています。
- ③ 姫路医療生協から委託された調査研究をスタートさせていますが、地域の状況やニーズを把握し、姫路医療生協の役割を明確にするとともに、安心して暮らせる地域づくりに役立つ提言が求められています。
- ④ あたらしく創刊した『くらしと協同』（発行6月末）やリニューアル準備をすすめているホームページで研究活動や研究成果を広く社会に発信していくことが求められています。

## II. 主な企画の報告

### (1) 第19回総会記念シンポジウム

- ① 第19回総会記念シンポジウムでは、20世紀に「班」や「生協産直」によって大きな成果をあげた生協が、21世紀にはさらにそこから質的にも一歩進んだレベルでの「協同」を打出すことができなければ、社会からその意義を認められなくなってしまうのではないかと、今こそ20世紀型の協同からの前進を考えなければならないのではないかと、という問題提起がされました。内容については『報告集』と『協う』（シンポジウム集）でお知らせしました。
- ② テーマであった「協同組合による新たな“つながり”づくり」については、第1回研究委員会（11/5）においてあらためてとりあげ、研究委員である井上英之氏（大阪音楽大学教授）と北川太一氏（福井県立大学教授）から問題提起をいただき議論を深めました。
- ③ それらの議論も踏まえ、5/19の拡大企画委員会では「生協事業と組合員・職員のあり様を考える」をテーマにして議論を深めました。

### (2) 第13回組合員理事トップセミナー

企画については、関西の団体会員生協の組合員理事が「呼びかけ人」となって素案を練り、研究者の全面的な協力を得て作り上げました。基調講演や4つの講座など情勢にあった丁寧でわかりやすい講演と、参加者自身の積極的な参画意識により、組合員理事の問題解決に寄与する学びの多いセミナーとなったと好評をいただきました。セミナーの内容については、『報告集』を作成し、会員に配布しましたが、いくつかの生協から役立っているとの感想をいただいています。

### (3) その他

#### 1. 公開研究会

2月4日(土)に第1回公開研究会を開催しました。「東日本大震災、原発事故、放射能汚染と協同組合」をテーマにして、福島大学協同組合ネットワーク研究所所長の高瀬雅男氏から福島の現状と課題について、放射能から子どもを守る京都ママパパ会の岩佐明子氏から活動事例について、それぞれご報告いただき、意見交換しました。また、この内容については、『報告集』を作成し会員にお届けしました。

#### 2. スタディツアー

企画委員会で検討して、3月5日、6日に福祉クラブ生協スタディツアーを、上掛利博氏(京都府立大学)をコーディネーターとして、福祉クラブ生協の組織と事業を学び、それぞれの生協が抱える課題を解決するヒントを見出す機会とすることを目的にして実施しました。

また、3月27日に南医療生協スタディツアーを、鈴木勉氏(佛教大学)をコーディネーターとして、南医療生協の事業活動や組織について学び、その取り組み事例や地域との関係性等についてお聞かせいただき、施設も見学させていただくなかで、これまでとは違った視点で生協について考える機会にすることを目的にして実施しました。

ふたつのスタディツアーを通じて、組合員がくらしの中で困ったことを、組合員自身が主体になって、生協の場を通して解決している姿を学ぶことができました。

#### 3. おしゃべりパーティ研究交流会

“おしゃべりパーティ”のもつ意味を生協と地域社会の両面から考えてみることを主な目的にして、“おしゃべりパーティ”研究交流会を3月10日に開催しました。浜岡政好氏(佛教大学)の解題にもとづき、ララコープ長尾保子会長とコープしが北川紀子副理事長から事例報告いただき、上掛利博氏(京都府立大学)、中川順子氏(立命館大学)のコメントのあと、各生協参加者、研究者で意見交流しました。

### (資料1) 第19回総会記念シンポジウム実施概要

#### <シンポジウム>

- ◆特別報告 「東日本大震災の被災地生協より」 齋藤昭子氏(みやぎ生協理事長)
- ◆基調講演 「いま、非営利・協同に何ができるか、何が求められているのか～理念・原則と現実から考える」 杉本貴志氏(関西大学教授)
- ◆生協への期待と注文
  - 1. 「生協で子育て層が減少しているのはなぜか  
～組合員のつながりづくりの観点から」 近本聡子氏(生協総研研究員)

2. 「生協は食と農にどう向き合うのか～食をめぐるつながりづくりの観点から  
増田佳昭氏（滋賀県立大学教授）」
3. 「生協にとって職員とは何か～働く人々のつながりづくりの観点から」  
岡安喜三郎氏（協同総研理事長）」
4. 「協同のまちづくりと生協～地域のつながりづくりの観点から」  
橋本吉広氏（地域と協同の研究センター理事）」

◆ 4つの期待と注文のどう応えるか

寺本康美氏（コープあいち理事長）

二場邦彦氏（京都生協理事長）

<分科会>

**第1分科会**（地縁と血縁を超えた“つながり”づくり）41人

コーディネーター：上掛利博氏（京都府立大学教授）

中川順子氏（立命館大学教授）

話題提供：小池田忠氏（名古屋市緑区「森の里荘」自治会長）

増田隆子氏（京都生協組合員）

**第2分科会**（生協と生産者の新たな“つながり”づくり）30人

コーディネーター：辻村英之氏（京都大学大学院准教授）

話題提供：吉岡功光氏（京都府京丹後市飼料用米生産組合代表）

濱田和夫氏（滋賀有機ネットワーク代表取締役）

**第3分科会**（働くもののつながりづくり）36人

コーディネーター：的場信樹氏（佛教大学教授）

話題提供：佐竹泉氏（おおさかパルコープ忍ヶ丘店農産リーダー）

松田修一氏（コープみやざき宮崎北支所地域責任者）

**特別分科会1**（震災） 35人

コーディネーター：浜岡政好氏（佛教大学教授）

井上英之氏（大阪音楽大学教授）

話題提供：加藤善正氏（岩手県生協連会長）

熊谷純一氏（福島県生協連会長）

水島重光氏（日生協中央地連大規模災害対策協議会世話人）

**特別分科会2**（協同組合論）34人

コーディネーター：杉本貴志氏（関西大学教授）

話題提供：堀越芳昭氏（山梨学院大学大学院教授）

北島健一氏（立教大学教授）

## (資料2) 2011年度自主研究会活動報告

### (1) 生協と福祉研究会 代表：上掛利博氏（京都府立大学）

#### ① 研究テーマ

生活協同組合の福祉の多面的な検討 … よりよく生きる（ウェル・ビーイング）という視点から、生活協同組合が取り組んでいる、あるいは取り組めていない福祉の事業や活動について多面的に検討する。

#### ② 成果と評価

- ・「地域包括ケア」を中心に、毎月1回（1月をのぞき）研究会を開催した。
- ・ビデオの活用や、地域調査などの実際をふまえた議論ができた。
- ・研究所のスタディツアーに関連して研究会を持ったが、参加者が少なかった。

### (2) 尾崎経済思想史サロン 代表：久保建夫氏（研究委員）

#### ① 研究テーマ

東日本大震災／原発災害の世界史的位置づけ

#### ② 成果と評価

- ・2～3ヶ月1回のペースで例会（東日本大震災、原発問題）と、1/28には公開講座「尾崎世界史観と原発災害」（参加20名）を開催した。
- ・公開講座の冊子作成を確認した。

### (3) 生活圏市場研究会 代表：三好正巳氏（立命館大学名誉教授）

#### ① 研究テーマ

生活圏市場の事例と理論

#### ② 成果と評価

- ・「生活圏市場」をめぐっての事例研究を通じてそれぞれがわがものとして生活圏市場論の形成に挑戦した。現存の新自由主義型グローバル市場への「対抗軸」としての生活圏市場への理論的、実践的アプローチをおこなった。
- ・報告書作成を確認し、現在まとめ作業中である。

### (4) 食育研究会 代表：あざみ祥子氏（コンシューマーズ京都）

#### ① 研究テーマ

「家族の変容と食」～変わるのか日本の食卓・京都の食卓  
～家族・食卓の現場調査・研究

#### ② 成果と評価

- ・今年度は活動をすることができなかった。
- ・研究会として独自の課題を設定し、研究していくことができなかったため、今後は研究テーマの模索に力を入れたい。

(5) 食の懇話会 代表：北川太一氏（福井県立大学）

① 研究テーマ

食と農をむすぶために 一川上から川下まで

② 成果と評価

- ・本年度も、引き続き参加メンバーの問題意識の交流を中心に研究会活動を進めるとともに、研究所の総会シンポ分科会を企画・運営した。総会シンポ分科会では、メンバーである辻村氏をコーディネーターとして「生協と生産者の新たな“つながり”～「産直」から「提携」へ～」をテーマに、活発な意見交換が行われた。
- ・9月に、上記分科会のフォローも兼ねた現地調査を、コープしがとJAおうみ富士が運営する農産物直売所への調査を行った。
- ・今年度の成果も含めて、研究会としては2冊目となるディスカッションペーパーをとりまとめた。

(6) 現代家族研究会 代表：中川順子氏（立命館大学）、

① 研究テーマ

生協組合員とその家族のネットワークに関する調査

ーコープしが組合員調査の分析とまとめー

② 成果と評価

- ・コープしがの協力を得て行った「組合員の家族とそのネットワーク調査」本報告をまとめることが今年度の課題であったが、現時点で未完成である。
- ・今回の報告書は、メンバー各自がテーマを明確にし、レポートとしてまとめ、冊子とするという形態とする予定である。
- ・テーマとしては、今回調査の特性（組合員の配偶者ー男性ーを調査対象に組み込んだこと、回答者の年齢が比較的高齢にシフトしていること）から、当面以下のテーマを確認している。早期に冊子化出来るようにしたい。
  - 1.組合員の配偶者ー男性ー像を掘り起こし、生協へのかかわり方を探る。
  - 2.高齢組合員の家族・かかわり・意識をとらえ、今後の生協への期待を見る。
  - 3.子育て世代の組合員の家族とその社会資源に注目し、子育て・介護などケアに関する資源の状況、家族（組合員）支援と生協等を考察する。
  - 4.個配層の増加を踏まえ、個配利用者の実態把握を試み、今後の利用形態への示唆を得る。

(7) 生協経営研究会 代表：若林靖永氏（京都大学）

① 研究テーマ

おおさかパルコープ訪問調査

② 成果と評価

- ・前年度のコープさっぽろ調査に続いて、今回は近畿・西日本エリアを対象とした訪問調査を実施しようということで、おおさかパルコープのご協力を得て調査を行った。
- ・店舗、無店舗、福祉、組合員活動、商品と事業連合、役員面談と多角的にヒアリングを集中して実施することで、トータルに置かれている環境でいかに取り組んでいるかを調査し考察することになった。現場の課題に新たな発想での取り組み、施策の転換に挑戦しているところに注目した。また、成果をふまえておおさかパルコープの職員研修にも協力した。
- ・来年度については、3月は東日本大震災後1年ということで先送りし、被災生協を対象に夏に訪問調査を実施することを検討している。

(8) 福祉事業の協同組合間協同に関する研究会

代表：鈴木 勉氏（佛教大学）

① 研究テーマ

大阪の生協と医療生協の組合員活動・福祉事業に関する基礎的データの収集

② 成果と評価

大阪市の城東地域の「パルコープ」および「ヘルスコープおおさか」の役職員と組合員からの詳細な報告を受け、両生協の組合員活動と福祉事業に関して、研究会メンバーの共通認識を得ることができた

(9) 日韓の生協研究会 代表：秋葉 武氏（立命館大学）

① 研究テーマ

日韓の生協比較研究

③ 成果と評価

- ・本研究会では昨年度に引き続き他の研究プロジェクトと共同で、日韓の生協の比較研究を行った。
- ・2011年3月11日の東日本大震災の余波で、夏期に京都で開催予定だった東京及び韓国の生協担当者を招いた研究会開催が中止となった。
- ・そこで、12月から計3回、東京で日韓の生協についての資料収集、研究調査を行い、日韓生協の今後の可能性について考察した。

(10) 生協はどう生産にかかわれるか研究会 代表：服部典夫氏（コープしが）、

① 研究テーマ

県内の生産者・団体と協議、連携をすすめ、生協の組織を活かし農産物の利用促進及び生産拡大をすすめる

② 成果と評価

- ・(株)アグリサポートおうみ富士は、管内農家・組合員の農地を守るため、持続可

能地域農業の振興と地域水田農業の最終担い手として設立された。現在は水田の農作業受託が中心であるが、近々、生協と農作物の産直提携を行い地産地消を目指していく予定となった。

- ・JA こうか地域は、水稻、お茶を中心に伝統野菜も多数有り、県内でも有数の農業地域であるが、伝統野菜の生産量が少ない状況である。これまで生協との取引があるが、数量限定企画などしかないのが現状である。生協組合員のニーズや要望を伝え、農家の生産意欲を高め生産拡大に結びつくような関係作りを目指したい。

\*上記のほか、「地域と医療研究会」「土佐くらし研究会」「えひめ・くらしと協同の研究会」があります。

### (資料3) 講師紹介、講師活動 \*敬称略

生協を中心にして多くの団体から講師要請があり、研究者の協力で積極的に応えることができました。

- \* 下記に主なものを掲載しました。なお、講演テーマについては、最終確定されたものになっていない場合があります。

- 7/16 若林靖永 パルコープ支所責任者集会  
「21世紀の生協らしい事業経営のあり方を考える」
- 7/17 鈴木勉 生協ひろしま福祉労働組合「生活協同組合と福祉の関わり方～介護保険制度の問題点と今後の課題」
- 9/28 杉本貴志 エフコープ組合員理事研修「協同組合原則」
- 10/15 杉本貴志 C O O P牛乳産直交流協会・産直意見交換会  
「今日の状況における協同組合の役割」
- 11/3 杉本貴志 コープ九州事業連合 次世代リーダー育成学校  
「国際協同組合年と生協への期待」
- 11/4 高山一夫 パルコープ組合員学習会「あなたのくらしを考える～税と社会保障の一体改革に関して」
- 11/13 上掛利博 福祉クラブ生協「2011年度、福祉クラブトップ共育」  
テーマ「福祉クラブ、W. C o活動の社会的使命、価値の再評価」のコメント
- 11/14 杉本貴志 生協しまね組合員研修会「協同組合原則」
- 11/26 鈴木勉 コープしが研修会
- 12/21 杉本貴志 岩手県生協連 「日本の協同組合に何が期待されているか」
- 2012年
- 1/26 若林靖永 姫路医療生協 管理者マネジメント研修  
(ドラッカーの自己評価手法を活用して)
- 1/31 若林靖永 パルコープ商品研修
- 2/4 鈴木勉 コープしが福祉ミニフォーラム

- 2/7 杉本貴志 パルシステム神奈川ゆめコープ「生活協同組合の歴史と求められる役割」
- 2/15.16 村田武 島根県生協連 「T P Pについて」
- 2/17 杉本貴志 エフコープ事業所長研修 「国際協同組合年を迎えて」
- 3/10 北川太一 シンポジウム『甦れ！農』Part13 (松山市 JA 愛媛ホール)  
基本テーマ「大震災が問う！競争原理から協同の絆へ」  
講演テーマ「地域づくりと協同組合の役割」
- 3/26 中川順子 おおさかパルコープ組合員リーダー研修会  
「家族と地域・社会の変容 から協同組合の役割を考える」
- 3/26 杉本貴志 おおさかいずみ生協 新入協職員研修

(予定)

- 8/18 北川太一 コープいしかわ「協同組合の役割と可能性—地産地消、農業・農村問題への関与の視点から—」(仮)
- 8/28 杉本貴志 大学生協寄付講座 「協同組合論」
- 8/30 杉本貴志 石川県生協連役職員研修 「協同組合の歴史と役割」
- 8/31 杉本貴志 近畿地区生協・行政合同会議  
「2012 国際協同組合年を契機とした協同組合への期待と役割について」
- 9/27 29 杉本貴志 エフコープ組合員・職員研修
- \*以上の他に、事務局で集約できていないものがあります。

#### (資料4)『協う』、報告集などの発行

- ① 8月号特集(協同組合により新たな“つながり”づくり～第19回総会シンポジウムを振りかえる)
- ② 10月号特集(被災地と協同組合)
- ③ 12月号特集(いま再び考える食の「安心・安全」)
- ④ 2月、4月合併号特集(震災1年、さよなら『協う』)
- ⑤「第19回総会記念シンポジウム報告集」(通巻59号)
- ⑥「第13回生協組合員理事トップセミナー報告集」(通巻60号)
- ⑦ 報告集「東日本大震災・原発事故・放射能汚染と協同組合」(通巻61号)
- ⑧ デイスカッションペーパー「生産者と消費者をつなぐ『新たなつながり』を考える」

#### (資料5) 会員の状況

- ① 個人会員 165名(3/21現在) 入会 11名 退会 13名
- ② 団体会員 39団体 (入会、退会なし)

\*現在、1団体で入会を検討していただいています。

## (資料6) 昨年の総会以降のおもな活動

- 7/1 編集委員会 (8月号企画:特集「協同組合による新たな“つながり”づくり」)
- 7/2 姫路医療生協委託調査の打合せ
- 7/4 生協と福祉研究会:「シンポジウムの振り返り」
- 7/4 組合員理事トップセミナー第4回呼びかけ人会議
- 7/15 第1回運営委員会
- 7/18 福祉事業協同組合間協同研究会:「コープ中浜店の地域に住むヘルスコープ組合員からの報告」
- 7/26 食の懇話会:「総会シンポの振り返り、今期の研究活動」
- 7/28 生活圏市場研究会:「地域包括ケアと生活圏市場」
- 7/29 姫路医療生協調査事前説明と意見交換
- 8/5 生協と福祉研究会:「地域包括ケア」について
- 8/8 編集委員会 (10月号企画:特集「被災地と協同組合」)
- 8/8 組合員理事トップセミナー第5回呼びかけ人会議
- 8/9 生協と農業・農村のかかわり方に関する研究会:「今年度とりくみと視察訪問先」
- 8/19 第1回企画委員会
- 8/29 姫路医療生協予備調査
- 9/9 生協と福祉研究会:「地域包括ケアⅡ」「姫路医療生協調査から」他
- 9/13 生協と農業・農村のかかわり方に関する研究会:「アグリサポートおうみ富士視察」
- 9/16 第2回運営委員会
- 9/22 食の懇話会:「コープしが調査とJAおうみ富士視察」
- 9/30 編集委員会 (12月号企画:特集「いま再び考える食の『安心・安全』」)  
「第19回総会シンポジウム報告集」発行  
「協う」10月号(特集「被災地と協同組合」)発行
- 10/3 福祉事業協同組合間協同研究会  
「パルコープ東中浜店とサロン、友遊の食事会、たすけあいの会からの報告」
- 10/5 組合員理事トップセミナー第6回呼びかけ人会議
- 10/10 生協と福祉研究会:「地域包括ケアⅢ」など
- 10/10 姫路医療生協調査プロジェクト会議スタート 敬称略  
上掛利博(代表)、井上英之(相談役)、浜岡政好(相談役)、中川順子、鈴木勉、  
若林靖永、高山一夫、中嶋陽子、二場邦彦、岡本哲弥、三好正巳、久保建夫
- 10/12 尾崎経済思想史サロン:「東日本大震災と歴史認識」
- 10/13 第2回企画委員会
- 10/25 食の懇話会:「コープしが調査」「JAおうみ富士視察」の報告、意見交換
- 10/28 第3回運営委員会
- 11/5 第1回研究委員会
- 11/11 編集委員会 (2月号企画)
- 11/11 姫路医療生協調査PJ三役会議

- 11/18 第4回運営委員会
- 11/20 生活圏市場研究会：「京都生協安心して暮らせるしくみPJ」実践報告
- 11/21 組合員理事トップセミナー第7回呼掛け人会議
- 11/21 生協と福祉研究会：「福祉クラブ生協の歩み」、ビデオ「絆街道をゆく」
- 12/3.4 第13回組合員理事トップセミナー
- 12/ 5 第20回総会記念シンポジウム実行委員会（第1回）  
「問題意識、研究テーマに基づく議論」  
実行委員会体制 \*敬称略  
責任者＝北川太一 委員＝高山一夫、玉置了、秋葉武、岡本哲弥、辻村英之
- 12/ 6 第3回企画委員会
- 12/7 生協と福祉研究会「協同っていいかも」
- 12/ 8 尾崎経済思想史サロン「原発災害の世界史的評価」
- 12/ 9 編集委員会（2月、4月合併号企画）
- 12/16 第5回運営委員会
- 12/17 第2回理事会
- 12/20 食の懇話会「ディスカッションペーパー作成打合せ」
- 12/27 組合理事トップセミナー第8回呼掛け人会議
- 12/27 姫路市訪問調査（高齢者保健福祉及び介護保険事業計画等に関する  
ヒアリング調査）
- 1/6 姫路医療生協調査打合せ
- 1/16 第20回総会記念シンポジウム実行委員会（第2回）「企画骨子の検討」
- 1/17 編集委員会（2月、4月合併号企画）
- 1/19 姫路医療生協調査契約調印
- 1/20 第6回運営委員会
- 1/25 おしゃべりパーティききとり調査（コープしが・京都生協）
- 1/28 尾崎公開講座「尾崎世界史観と原発災害」
- 2/2 3 ララコープ訪問調査（ララパーティ）
- 2/4 第2回研究委員会（第1回公開研究会）
- 2/7 第4回企画委員会
- 2/8 シンポジウム実行委員会（第3回）「企画（案）の検討と大枠の確認」
- 2/10 おしゃべりパーティ打合せ会議
- 2/12 「協う」座談会
- 2/13 編集委員会（くらしと協同創刊号企画）
- 2/16 生協と農業・農村のかかわり方に関する研究会：「JAこうか視察交流」
- 2/15 姫路医療生協調査打合せ会議
- 2/17 第7回運営委員会
- 2/20 現代家族研究会「報告書の構成と執筆分担」
- 2/21 生協と福祉研究会「福祉クラブ生協について」

- 2/21 食の懇話会「ディスカッションペーパー掲載論文の報告」
- 2/24 姫路医療生協北地域包括支援センターエリア調査
- 3/2 編集委員会（くらしと協同創刊号企画）
- 3/5 6 福祉クラブ生協スタディツアー
- 3/10 常任理事会
- 3/10 おしゃべりパーティ研究交流会
- 3/12 現代家族研究会「執筆状況の確認」
- 3/15 組合員理事トップセミナー呼掛け人会議
- 3/16 第8回運営委員会 総会記念シンポジウム一次案内発送
- 3/19 現代家族研究会「報告書構成の再編」
- 3/24 第3回研究委員会
- 3/24 25 生活圏市場研究会（合宿）「報告書のまとめにむけて」
- 3/27 南医療生協スタディツアー
- 4/2 編集委員会（くらしと協同創刊号企画）
- 4/9 シンポジウム実行委員会（第4回）「企画の基本内容の確認」
- 4/10 第5回企画委員会
- 4/20 第9回運営委員会
- 4/21 第2回常任理事会、第3回理事会
- 5/1 食の懇話会「タンザニア調査報告」
- 5/10 「おたがいさま」研究交流企画検討会
- 5/11 編集委員会（くらしと協同創刊号企画）  
第10回運営委員会 「総会記念シンポジウムのご案内」発送
- 5/17 監事会
- 5/18 姫路医療生協調査ワーキングチーム会議
- 5/19 拡大企画委員会（運営委員会参加）
- 5/21 組合員理事トップセミナー呼掛け人会議
- 5/23 食育研究会
- 5/29 姫路医療生協地域調査ワーキングチーム会議
- 6/4 編集委員会
- 6/6 シンポジウム実行委員会（第5回）
- 6/8 姫路医療生協地域調査ワーキングチーム会議（学習会）
- 6/15 第11回運営委員会
- 6/16 姫路医療生協調査プロジェクト会議
- 6/19 姫路医療生協地域調査ワーキングチーム会議

(第2号議案)

## 2012年度 活動方針

### <2012 年度活動の基調>

東日本大震災、原発事故から 1 年以上が経過した中で、震災復興のあり方、食料・環境・エネルギー問題、超高齢社会への対応、格差と貧困など、日本社会の将来を左右する問題が提起されています。このような事態のなかで、協同組合がどのような社会像を打ち出せるのか、協同組合や生協がどのような役割を果たせるのかが問われています。

国連は 2012 年を国際協同組合年と定め、よりよい経済・社会の建設や貧困の根絶に貢献する協同組合の役割を再認識し、協同組合の成長を促進させ、協同組合育成政策を確立するよう、各国の政府や国際機関をはじめ世界の人々に呼びかけました。国際協同組合年を契機にして、期待されている協同組合の役割を発揮できるようにすることが求められています。

第 20 回総会記念シンポジウムでは、『協同の価値を掘り起こす～生協の針路を展望するために～』というテーマで議論をしました。この議論を発展させ、“協同による地域再生”や“あたらしい暮らし方（一人ひとりの価値観、考え方の転換）”などをテーマにして、食料・農業、環境・エネルギー、医療・福祉の分野にも関わって、継続した研究が求められます。

現場の実践事例や実践家の問題意識（問題提起）を大切にして、引き続き、組合員の位置づけや職員の役割などの議論を深めるなかで“生協事業のあり様”についての研究をすすめます。

研究所創立 20 周年の節目の年に、現場の実態をもとにして調査研究することが特徴である当研究所の存在価値について議論を深め、研究所が会員（団体・個人）、研究者、そして社会に価値を生み出せるように、より多くの人の参加を大切にしながら研究活動を改善強化していきます。

### <2012 年度のおもな活動計画>

#### I. シンポジウム・研究交流・セミナー企画

##### (1) 国際協同組合年フォーラムの開催

###### ◆基調講演「震災復興と住民主体の地域再生を考える」

講師：岡田知弘氏（京都大学大学院教授）

###### ◆ディスカッション

①日時： 10 月 日（土）午後 1 時 30 分～5 時

\* 当初 7/28 を予定しておりましたが、都合で延期になりました。6 月 30 日の総会当日に確定した日程をお知らせいたします。

②会場： 生協会館 4 階会議室

③位置づけ

- ・ 震災復興のあり方（政府、財界主導の「創造的復興」と被災者の生存の機会を

保障する「人間の復興」との対抗軸)を考える場にします。

- ・ 被災地でおこっている惨事便乗型復興の具体的な動きや背景、歴史的教訓を知るとともに、「人間の復興」につながる被災地での協同の取り組みの実践事例を知り、被災地において被災者の生活を支える地域産業と雇用、生業を再建すること(地域内再投資力の再建)の意味や重要性を考えます。
- ・ そのような話をうけ、議論を通じて協同組合や生協の役割、特に協同での地域再生における生協の役割について考える機会にします。

(2)「再生可能エネルギーの拡大と住民主体の地域づくりを考える」企画

◆高知県梶原町スタディツアー

- ①目的：自然エネルギーの町、高知県梶原町を訪ね、地域住民主体で再生エネルギーの普及をおこない、地域づくり、人づくりにつなげているようすを視察し、講義、交流を通して学びます。
- ②日時：10月23(火)24日(水)予定  
\*集合は伊丹空港と高知龍馬空港(現地集合組)
- ③企画：講義「再生可能エネルギー普及と町づくり、仕事おこし」  
視察 1.ペレット工場 2.小水力発電 3.風力発電  
交流 地元婦人(ドレッシングの商品化)

◆他の事例報告も含めた公開研究会も開催を検討します。(予定11月中旬頃)

(3)国際協同組合年記念国際シンポジウム(生協総合研究所との共催企画)

- ①日時：11月24日(土)13:00~17:00 コープイン京都
- ②テーマ：社会経済開発における協同組合の可能性：共益と公益
  - ・環境保全(再生可能エネルギー、CO2削減、リサイクル等)
  - ・社会サービス供給(医療、福祉、保育等)
  - ・雇用創出と社会統合(社会的協同組合等)
  - ・共益を基本に公益にいかに関与するか
- ③参加者：100~150名(研究者ネットワーク+公募)
- ④企画 \*日英逐次通訳  
報告1：ジョンストン・バーチャル(イギリス・スターリング大学教授)  
報告2：ルー・ハモンド・ケティルソン(カナダ・サスカチュワン大学教授)  
パネル討論

(4)第14回組合員理事トップセミナーの開催

- ①日時：12/8(土)9(日)
- ②会場：コープイン京都
- ③参加対象と定員：組合員理事を対象に40名
- ④企画

組合員理事の主体的な参画とディスカッションを重視した参加型セミナーというコンセプトで、組合員理事で構成する呼掛け人会議で企画の具体化をしていま

す。企画確定しだい各生協にご案内します。

(5) 研究交流企画

おしゃべりパーティーやおたがいさま活動などの研究交流会の開催を検討します。

(6) 第 21 回総会記念シンポジウム 2013 年 6/29 (土) 30 (日) 予定

## II. 研究活動

1. 第 20 回総会記念シンポジウムはじめこれまでの議論を踏まえて、研究委員会で年間計画を決め継続した研究活動をすすめます。
2. 自主研究会は年間活動計画にもとづき活動し、研究成果を報告します。  
\*各自主研究会の 2012 年度の活動計画は総会当日配布します。
3. 姫路医療生協から委託を受けた調査と共同研究を推進します。超高齢社会を迎えるなかで安心して暮らせる地域づくりのために、医療生協の果たす役割や職員の働き方などについて提言ができるようにします。7 月末から集中的な調査に取り組み、年内に中間報告会を開催し、期日までに報告書が完成できるようにします。

## III. 会員への情報提供、出版、講師紹介

1. 季刊『くらしと協同』の創刊を成功させ、内容を充実させる中で、より多くの人々に普及し役立つようにします。また、執筆や投稿論文などを活用し、若手研究者の活躍の場をつくるとともに、あらたな研究者とのつながりの機会にします。
2. ホームページをリニューアルし、研究所の活動をより多くの人に、タイムリーに情報提供できるようにします。インターネットを活用した『くらしと協同』の普及と会員の拡大をすすめます。
3. 講師紹介や研修会事例の紹介など、団体会員の学習や研修の要請に応える活動を引き続き強めます。

## IV. 研究所の運営

1. 理事会では研究所活動をすすめる上で求められる政策課題の検討と立案をおこないます。
2. 研究委員会では、各研究会から研究活動や研究成果の報告を受けるとともに、年間テーマを決め、中核となる研究会やテーマ別のワーキンググループの編成についても検討します。
3. 運営委員会は研究委員会の役割（研究委員会規程第 3 条）を日常的に担うことが求められています。毎月の運営委員会への出席が困難な研究者が増えていることも考慮し、運営委員会の持ち方を改善し、集中した議論ができるようにします。
4. 企画委員会は現場の事実や状況から研究テーマを探索し研究活動の具体化につなげる重要な役割を担っています。運営委員会との合同会議を計画的に開催するなど、より多くの研究者と実践家が問題意識を出し合い、団体会員に役立つ研究テーマの探索と研究活動ができるようにします。